

「還暦」に感激する

9月13日付の朝日新聞「ひと」欄は沢田研二さんであり興味深く読んだ。あこがれのアイドル沢田さんも還暦であり、今年アルバムの9番目は憲法9条賛歌である。「60歳になったら、言いたいことをコソツと言うのもいいかな、と。いま憲法は、改憲の動きの前でまさに『窮状』にあるでしょう。言葉に出さないが9条を守りたいと願っている人たちに、私も同じ願いですよというサインを送りたい」と述べている。

歌は「この窮状 救えるのは静かに通る言葉 / 我が窮状 守りきりたい 許し合い 信じよう」とソフトに終わる。還暦に憲法への思いを歌うジュリーに感激した。私も同じく還暦を迎えた。

ゼミの卒業生たちが私の「還暦を祝う会」をやってくれた。何度か祝う会を企画してきたが、自分が祝ってもらえるなどと思ってもいなかったのが望外の喜びである。集合場所に行くと、懐かしい卒業生たちが待っていた。予想を大幅に超える16名の卒業生、現役4年ゼミ生が参加して盛会になった。



自己紹介をかね順番に私への「思い」などを語ってくれ、感慨深く聞かせてもらった。そのあと緊張気味に次のようなお礼のことばを述べた。還暦といっても実感はないが、想定外の祝う会をやってもらえ、まさに「かんれき」(かんげき)である。

病弱な身ながら60まで生きられ、大学でゼミ生をはじめ良き「教え子」らに恵まれ幸せだ。まだまだ若々しく、新鮮な気持ちで学生たちに接していきたい。現代社会学科の持続的発展のために、これからも奮闘努力していくので、皆さんもよろしく。***

会が盛り上がるなか部屋の灯りが消え、停電かと思っ
たが、暗い部屋に豪華なケーキが運ばれてきた。「初経験」
であり、蠟燭を消すタイミングを間違えてしまった。



さいごに、幹事直筆の「祝還暦 ますますのご活躍をお祈りします」と書かれた心のこもった色紙と花束をもらい、記念撮影をして会を終えた。とても感じの良い幹事に感謝するばかりだ。色紙は人生「後半」の宝物として大切にしたい。ジュリーのように多くの人に「思い」を伝えていきたい。

(2008年9月19日 記)